［ 特別座談会 ］
真のグローバールリーダーの育成を目指して留学経験者とともに考える

塾高の国際交流の未来

前英語科教諭で短期交換留学を長年担当してきた松原一宣先生、現在国際交流を担当する内田浩章先生、北島信哉先生のもとに、世代の異なる５名の留学経験者が集合。それぞれの体験談をもとに、塾高のグローバル化、国際交流の未来の形を語り合っていただいた。

| TETSURO YOGO | HAYATO KITAMURA | RIN MIYAMOTO | SHU SAKAMOTO | MASAHIRO IWAOKA |

| HIROAKI UCHIDA | KAZUNORI MATSUBARA | SHINYA KITAJIMA |

将来を見据えて留学という道を突き進んだ5人

――まずは今回お集まりいただいたOBのみなさんから『留学したきっかけ』についてお話をお願いします。

余語徹郎さん（以下：余語）私は幼稚舎から慶應に通っているのですが、塾高にあがると人数も一気に増えて、幼稚舎・普通部と気心知れた友人に囲まれていたのが、塾高で全く新しいタイプの友人たちと出会うことになりました。そこで今度は自分の全く知らない世界に身を置いてみたいと思うようになり、塾高2年のときに父の友人が住んでいたアメリカのソルトレイクシティに1年間留学しました。今は留年しないでも留学できる制度もあるようですが、私のときはそういった制度はなく留年となりました。でも留年した分塾高の友達は2倍に増えました（笑）

北村勇人さん（以下：北村）私は中等部からの内部生なのですが、中学受験のときから英語だけが苦手でした。さらに中等部では剣道、塾高ではアメフトと部活に夢中になっていたら、授業にもついていけないほどになってしまって。ここで英語力をつけなければ一生後悔すると思い、武者修行のつもりで留学という道を選びました。

岩岡将宏さん（以下：岩岡）小学４年

p53-58_JK2022.indd 52-53
2022/02/17 20:17

生のときの担任の先生が英語がすごく好きな方で、『アメリカの小学校では机は前向いて並んでいない』とか『車座になってみんなで話しながら授業が進む』といった話を聞かせてもらい、その頃から漠然と留学したいと思っていました。あと早く親元を巣立ちたい、みたいな気持ちもありました。結果、中等部で1ヶ月間アメリカに留学したらとても楽しくて、塾高でも1年間アメリカのバージニア州に留学をしました。

――坂本さんと宮本さんは試験に合格した人だけが留学に行ける「派遣留学制度」で留学されたんですよね。

坂本嵩さん（以下：坂本） 僕は小学校時代、父親の仕事の関係でロンドンに住んでいたのですが、幼心に海外で活躍する父を見てかっこいいなと憧れていました。だから中学でも英語には力を入れていたのですが、塾高に進学してから、留年にならない、さらに留学費の負担も少ない、派遣留学制度のことを知り、高校1年生で試験にトライしてみました。その時は落ちてしまったんですけど、高校2年で再トライして合格、晴れて高校3年でアメリカのフィリップス・アカデミー・アンドーバーに留学しました。

宮本凛さん（以下：宮本） 僕も坂本さんと少し似ていて、親の仕事の都合で、幼稚園から小学4年生まで上海のインターナショナルスクールに通っていました。国際色豊かな環境で、当時から将来は海外で働きたいと思っていました。あと普通部3年のときの塾高の説明会で、アンドーバーから帰国したばかりだった坂本さんのプレゼンを見て、自分も派遣留学に行きたいと思い、トライしました。高校2年のときは不合格でしたが、その後もう一度トライをして、無事に留学することができました。狭き門ではありますが、留年しない、奨学金も出る、素晴らしい制度だと思います。

高校生での留学は英語力以上の学びがあった

――高校生での長期の留学経験は、振り返るとどのようなものでしたか？

余語 人間のオモシロさを体感しました。最初のホストファミリーは父の友人でしたが、素行が悪く半年で追い出されてしまって（笑）。その後、当時のソビエト連邦から亡命してきたウクライナ人ファミリーのお宅に引き取ってもらいました。彼らと半年間、ひとつ屋根の下で一緒に過ごしているうちに、国籍とか生い立ちとか、宗教とか関係なく、人と人って繋がれる部分があるんだなとか、心は通じるんだなと実感しました。大学卒業後に商社に入ったのも、この留学経験があったからこそ。いろんな国や文化の人たちと関わっていきたいと思ったんですよね。

北村 私はとにかく英語ができなかったので最初の3ヶ月はかなり大変でしたが、耳が慣れて同世代の子たちと話をすると、日本のアニメの話とかトヨタ、ホンダといった日本車について話をするようになって。彼らは『日本の車ってすごいんだよ』『お前日本人だし、すごいなぁ』といった具合に、日本人のアイデンティティーとか文化を褒めてくれたんですね。そこで初めて、日本の文化やメーカーは、こんなにも世界から認められているんだということを知ることができました。

岩岡 僕はカルチャーギャップを経験できたのがよかったと思っています。僕が留学したのが、バージニア工科大学で韓国人留学生が銃乱射事件を起こした翌年くらいで、初日に食堂で13歳くらいの男の子に「お前銃持ってるか？」って聞かれたんですね。そしたら食堂がシーンとなって、そこにいるアメリカ人の生徒がみんな僕を見ているっていう状況になりました。まだ留学初日で耳が慣れる前だったのですが、そのときだけは何を言われたのかはっきりとわかりましたし、人種差別って本当にあるんだなと。あとは北村さんのように日本のコンテンツは国境を超えて認知されていると実感しました。僕のときは寿司とポケモン、あと漫画の『NARUTO』でした。こういう日本のコンテンツを輸出する仕事はいつかしてみたいと思っています。

坂本 僕は自分の意見を持つことの大切さを実感しました。ちょうど留学したとき、ヒラリー対トランプが選挙で戦っているところで、学校中がヒラリーが当選確実、といった雰囲気でした。そんななか、テレビ中継でトランプが優勢といった報道があり、僕自身もトランプのアメリカ魂みたいなものも理解できると感じていたので、そういった自分の立ち位置をきちんと決めた上で、友人と議論しなくてはなりませんでした。それは相手の意見に合わせたり、あるいは否定して傷つけたりするものではなく、互いに自分の意見をきちんと伝えあうという感覚です。

余語 アメリカと日本では空気の読み方が違うんだよね。日本は同調するのが空気を読むってことだけど、アメリカではディベートする。それも相手をやっつけるのではなくて、お互いの立場を尊重しながらディベートするんだよね。

坂本 相手を尊重しながら間違っているものは間違っていると建設的に伝える感じですよね。ただアメリカの空気の読み方に慣れてしまって、大学では同調の仕方を忘れて苦労しました（笑）

宮本 僕もそういった議論の場面は多々経験しました。道端で政治やジェンダーについて議論しなくてはならなくて、僕は自信もなかったので、自分の立ち位置を決めて意見を言うのがなかなかうまくできませんでした。でも冬休みの間だけ、親友のお宅にホームステイをさせてもらったんですが、そ

AAAAAA AAAAAA

前英語科教諭
現IMF横浜国際看護学校学校長
松原一宣さん

1979年早稲田大学教育学部卒業後、高等学校教諭、'83年ハワイ大学大学院中等教育修士課程修了。ニューヨーク学院教諭、一貫教育校国際交流会ディレクター、国語教育研究センター 理事などを歴任。2019年選択定年後、現職に至る。

TETSURO YOGO

Yogby株式会社　代表取締役社長
余語徹郎さん（44期）

997年慶應義塾大学理工学部卒、99年同大学 政策・メディア研究科修了、住友商事株式会社入社。一貫してIT関連業務に従事。スタンフォード大学 研究員、VA Linux Systems Japan株式会社社長を経て、現在は先端技術の活用コンサル会社を経営。週末は小学生のラグビーコーチを務める。
→塾高２年のときにアメリカのユタ州に留学。

HAYATO KITAMURA

株式会社北村商店　専務取締役
北村勇人さん（57期）

2010年慶應義塾大学環境情報学部卒。大学卒業後、株先会社サイバーエージェントに入社、広告営業をメインに6年間在籍後、2016年に家業である株式会社北村商店に入社、現在専務取締役。
→米国インディアナ州ホワイトランドの州都から40分ほどの場所にある小さな街に1年間留学。サッカー、レスリングといったクラブ活動にも参加。

塾高国際交流の歩み

第一期（1968～1999年）

三田国際文化交流協会主催による塾内４高校生対象の交換留学プログラム。米国ハワイのプナホウ・スクールとの交流は48年間続いた。

[主な留学先]
- ●米国ハワイ、プナホウ・スクール
- ●英国ミルフィールド・スクール
- ●英国本土セント・オルバンズ・スクール

第二期（2013年～現在）

第1期の各校との交流が途絶えたことで、新たに誕生した塾高独自の短期交換留学プログラム。２～３週間と短期留学が主流だが今後は1ターム（3ヵ月程度）を目処にした中期の留学プログラムの導入も目指している。

[主な留学先]
- ●米国キングス・カレッジ・スクール
- ●米国ザ・ボールズ・スクール
- ●米国セント・ジョン・ボスコ・ハイスクール

第3期（2014年～現在）

慶應義塾教育先導事業運営委員会主催による一貫校の生徒を対象とした派遣留学制度。米国６校、英国2校の名門高校に１年間の留学が認められ単位取得も可能だが各派遣先の受け入れ人数は原則１名の狭き門となっている。

[主な留学先]
- ●米国フィリップス・アカデミー・アンドーバー
- ●英国フィリップス・エクセター・アカデミー

第4期（2018年～現在）

渡航前提の留学だけでなく、塾高に留学生を受け入れたり、大学内にいる語学が堪能な学生や留学生を塾高で臨時職員として採用したり、あるいはオンラインで提携校と交流したりと、国際交流の新たな形を目指した取り組みを実施。

[主な実績]
- ●慶應サマープログラム（海外からの留学生受け入れ）
- ●TAプロジェクト（大学内留学生による授業実施）
- ●米国ザ・ボールズ・スクールとのオンライン交流

一般留学

学外の留学団体を利用した一般留学は、担任を通じて「留学願」を提出し、許可を得れば可能で、条件を満たせば、慶應義塾の学費免除措置を受けることができる。また授業がない期間の留学は自由。ただし、留学先で修得した単位の認定は行われない。

[主な利用団体]
- ●インターナショナル・フェローシップ(IF)
- ●AFS
- ●AYUSA

p53-58_JK2022.indd 54-55 2022/02/17 20:18

こでのお父さんとの出会いで自信を持てるようになりました。そのお父さんは、自分にとって第二の父親みたいな存在なのですが、彼はベトナム戦争のときに難民としてやってきて、何もない状態から会社もつくり成功をした素晴らしい方でした。そのお父さんが帰国間際に「凛は1年間アメリカで修行して、他の日本人とは違う。日本に帰っても無理に他人に合わせる必要はないよ」と。「Friends is the shit」という言葉もいただきました。「shit」は「the」をつけると「すごいやつ」みたいな意味になります。今も自信がなく不安になったときは心のなかでこの言葉を唱えています。

株式会社TBSホールディング
事業投資戦略局事業投資戦略部
兼ライブエンタメ局 eスポーツ研究所

岩岡将宏さん（62期）

2015年慶應義塾大学法学部法律学科卒、2016年Queen Mary University of Londonで修士号取得。2017年に帰国後、新卒でTBSテレビ入社。現在、中期経営計画の策定及び実行のためのスタートアップ投資とM&A戦略等の事業投資を担当。
→塾高1年次在学中に、米国バージニア州パトリック郡高校へホームステイで1年間留学。

MASAHIRO IWAOKA

北村　留学が自信につながるというのは大いにあると思います。私はたぶん、あのまま日本にいたら、英語もできないままだったと思いますし、英語力含めた人間としての急成長もなかったと思います。あと留学がきっかけでデザインや建築に興味を持ち、SFCへの進学を選び、視野も広がりました。なので、もし留学してみたいとモヤモヤしている塾高生がいたら、ぜひチャレンジしてほしいと思います。

コロナで苦戦する塾高国際交流の新たな挑戦

――みなさんのお話から、多感な高校生時代の留学というのは、英語力以上に得るものが大きいように感じます。グローバルな社会で活躍するためにも、たくさんの塾高生が留学できるといいのですが、現在の塾高の留学制度や状況は、先生いかがでしょうか？

内田浩章先生（以下：内田）　塾高独自の留学制度としては、短期の交換留学プログラムがあります。これが2013年から始まって、留学先はイギリスのキングス・カレッジ・スクールやアメリカのザ・ボールズ・スクールです。

余語　僕らの時代はイギリスのミルフィールドに留学したり、セント・オルバンスから学生が塾高に来たりしていましたよね？

松原一宣先生（以下：松原）　そうでしたね。塾高の留学制度は2003年に大きな転換期を迎えました。1999年までは、1969年にできた三田国際文化交流会が主催する留学制度ということで、ハワイのプナホウ・スクール、イギリスのミルフィールド、セント・オルバンス、ウエスト・ミンスターの4つの学校との短期の交換留学制度がありました。ただ、これは慶應義塾が主催の制度ではなかった上、各校の担当者が変わってしまったことで、残念ながら長年続いた交流が途絶えてしまい継続するのが難しくなりました。こうした状況を受け、2003年に新たに塾高独自の短期留学プログラムが誕生、翌年には、慶應義塾主催の派遣留学制度もスタートしました。

内田　ほかにも今、立ち上げようとしているのが中期の交換留学制度です。塾高独自の留学プログラムは短期しかないので、もう少し長い、2～3ヶ月くらいの期間留学できるものをイメージしています。

余語　2～3ヶ月だとちょうど耳が慣れてきた頃に帰国になるので、もったいないような気もしますね。

内田　将来的には1年の長期も考えてはいるのですが、まずは留学して帰ってきても同じ学年に戻れて、尚且つ、

英語科教諭

内田浩章さん（38期）

1979～82年まで父の転勤により米国西海岸で生活する。91年慶應義塾大学法学部法律学科卒業、東京外国語大学博士前期課程修了後、97年高等学校教諭。2001～03年ハワイ大学にて教育学修士号取得。2016年より国際交流委員長。航空部部長。

HIROAKI UCHIDA

坂本くんや宮本くんが行った派遣留学制度よりも、期間は短いですが、その分、門戸を広げた塾高独自の留学プログラムにしたいと考えています。ただコロナ禍でなかなかスタートできないのが現状です。

坂本　同じ学年に留学経験者が戻ってくる、というのは非常に大事ですよね。留学の経験者が周りにいた方が、『行くとこんな風に変わるんだ』といった見本にもなるし、『自分も行ってみよう』というきっかけにもなるかと。そういうロールモデルが同じ学年とかクラスとかにいっぱいいることで、学校全体がグローバルな雰囲気に近づいていくような気がします。

内田　もうひとつ、国際交流の新しい取り組みとしては、海外からの留学生の受け入れを実施しました。台湾からの学生で2019年～2020年にかけて1年間の留学でした。コロナ禍になり途中で帰ってしまったのですが、こうした海外留学生の受け入れは、今後も積極的に実施したいと思っています。

坂本　留学経験者もそうですが、海外からの留学生も、複数人いることが重要だと感じます。ひとりしかいないと「知らない顔がいるな」くらいで終わってしまいますが、3、4人いるとバリエーションも増えて、そこで多様性を認め合ったり、日本人同士の違いにも目を向けることができたり。ひとりしかいないと気づけなかったことにも気づけると思うんです。アンドーバーも留学生の割合が20％とかなり高いので、グローバルで多様性に富んだ学校になっているのかなと思います。

内田　そういう環境がつくれるといいのですが、2018年に夏休み期間に慶應に来てもらう、サマープログラムを実施した際には、ひとりしか応募がなかったんです。それでも2週間のプログラムを楽しんではもらえたのですが、翌年以降は残念ながら応募がなく、さらにコロナ禍で継続できていない状況です。

宮本　僕が通っている経済学部PEARLIでも、入試をアメリカ方式にして世界中から学生を募ってはいるのですが、圧倒的に韓国や中国といったアジア圏の学生が多いです。だからまずはアジア圏で受け入れの門戸を広げて塾高に来てもらうのがいいのではないかなと感じました。欧米だと、どうしても慶應はまだ知名度が足りない気がします。

北島信哉先生（以下：北島）　留学生の受け入れが進まない点も含めて、やはりコロナ禍が続いて、渡航が前提の交換留学を実施するのは難しい状況になっています。ただそのなかでもできることをしようということで、短期留学先のザ・ボールズ・スクールとはオンラインでの交流を実施しました。互いに自分たちの学校紹介の動画を塾高側は英語で、ボールズ側は日本語で作成してその動画を交換し合うといった取り組みです。コロナ禍で渡航制限がかかるなか、今後の国際交流をどう続けていけばいいのかというのは直近の課題だと感じています。

渡航しなくても留学体験を得る新しい形も目指す

松原　コロナの影響は悪いことばかりではありません。授業は対面で、留学も渡航するのがいちばんいいことには変わりませんが、授業も状況に応じてリモートを取り入れてきたように、留学もリモートとか、日本国内にいても何かできることがあるのでは？という風潮に変わりつつあります。

北島　国内でできることとして今年度新たに実施してみたのが、TAプロジェクトです。慶應大にいる留学生を一時的に塾高の臨時職員として雇用し、英語の授業のアシスタントをしてもらったほか、昼休みにはランチセッションを設けて「大学で何をしているのか？」といった会話を塾高生と英語でディスカッションしてもらう機会を設けたりしました。これがとても好評で英語の授業も非常に活発になりました。9名採用したうち、半分が経済学

SHU SAKAMOTO

2020年慶應義塾大学環境情報学部卒（飛び級）、現在同大学政策・メディア研究科修士課程在学中。大学院及びソニーコンピューターサイエンス研究所にて、音楽神経科学の基礎研究に従事するほか、脳科学若手の会の代表を務める。
→塾高3年次、派遣留学制度で米国フィリップスアカデミー・アンドーバーに編入、卒業。

坂本嵩さん（68期）

慶應義塾大学
政策・メディア研究科修士課程二年
青山敦研究室 TA、藤井進也研究室 TA
ソニーコンピューターサイエンス研究所
リサーチアシスタント
脳科学若手の会 代表

p53-58_JK2022.indd 56-57 2022/02/17 20:18

部PEARLIの学生で、中国、アメリカ、インドなどさまざまなバックボーンを持つ方に来ていただきました。このTAプロジェクトをやってみて、こういう素晴らしいリソースが近くにあるのに、今まで生かすことができていなかったと気づかされました。

坂本　TAプロジェクトの職員、ぜひやりたいです。塾高出身で派遣留学制度で留学した学生は、TAプロジェクトへの参加必須にしてもいいかも。

宮本　PEARLIの学生も興味がある人、たくさんいると思います。

北島　今年はトライアルでやってみたのですが、いい形で高大連携して発展させていきたいですね。

松原　2022年にイギリスの名門ハロウスクールがインターナショナルスクールを岩手に、2023年には同じくイギリス名門のラグビースクールが日本校を千葉大に開校予定です。こういった日本国内にある海外の名門校と塾高が提携を結ぶことも、新たな国際交流の形につながる気がします。たとえばクラブ活動で交流したり、交換授業を実施したり。渡航をしなくても、日本にいながらにして、留学と同じような環境をつくることができるのではないでしょうか。

岩岡　前期・後期、英語で授業を行う英語コースをつくるのもいいと思います。18クラスもありますし。

余語　僕らの時代より、帰国子女の方も多いので、できそうですよね。あとは全教科、英語で対応できる先生がいれば。

坂本　僕が塾高のとき、英語のクラスで『ショーシャンクの空に』を全編英語で鑑賞し、感想を英語でディスカスするという授業があったのですが、そのときも僕なんかより英語がしゃべれる子がたくさんいたので、英語コースの設置は現実的な感じもします。

岩岡　あとは世界を転々として校舎を持たないミネルバ大学のように、授業はオンラインで世界各地の教師が行うというのも渡航無しでもできますが、18クラスもあるので、実現は難しいでしょうか。

松原　授業はオンラインで、夏休みはサマースクールとして、塾高でリアル授業をやるとか、オンラインとのハイブリットを目指すのがいいかもしれないですね。

余語　仕事でも海外出張の頻度は減りましたが、Zoomとかで気軽に現地とオンラインで繋がれるようになったので、毎週会議ができるようになったんですよね。出張だと3ヶ月に1回とかだったのが、毎週1時間話せるようになり、理解も深まりました。だから留学も、サークル活動みたいな感じで現地の学校とオンラインで毎週交流をして、もし渡航ができる状況になったり、互いに会ってみたいと思ったら、夏休みとかを利用してリアルで交流するとか。渡航が前提ではない、新しい留学の形が生まれそうですよね。塾高生には、とにかく世界は広いので、大いなる好奇心と度胸をもって、未知の世界にどんどん飛び込んでほしいと思います。

英語科教諭

北島信哉さん

大学卒業後、2011年から神奈川県立相模原青陵高校（現：相模原弥栄高校）、同県立神奈川総合高校に勤務、2017年より現職。2018年より慶應義塾先導教育事業運営委員会委員、慶應義塾高校国際交流委員会委員として一貫校派遣留学制度、The Bolles School交換留学プログラムに携わる。ヨット部及び剣道部副部長。

SHINYA KITAJIMA

経済学部PEARL1年在学中

宮本凛さん（72期）

慶應義塾大学経済学部Pearl在学中（2025年卒業予定）。
→塾高3年次、派遣留学制度で米国フィリップスアカデミー・アンドーバーに編入、卒業。

RIN MIYAMOTO

p53-58_JK2022.indd 58-59 2022/02/17 20:18